

**【短報】オオチビマルハナノミ京都府八幡市で採集**

オオチビマルハナノミ *Yoshitomia beattyi* (Pic, 1918) は京都府のレッドデータブックで絶滅寸前種とされており、最近では宇治市木幡池でのみ生息が確認されている(水野, 2001; Yoshitomi, 2005). 府下では、木幡池以外での記録として、京都市伏見区と八幡市からの古い記録がある(後述)が、それぞれ1例ずつあるのみであった。今回40年ぶりに八幡市からの生息が確認できたので報告する。

1ex., 京都府八幡市男山, 12-IV-2014, 谷壽一採集;  
1ex., 京都府八幡市男山, 22-IV-2014, 伊藤建夫採集.

採集地点は石清水八幡宮境内であるが、水系は道路を隔てて大谷川に面しており、また近くには放生池(ほうじょういけ)がある。大谷川(図2)は天候により水位は安定しないので、おそらく放生池(図3)が幼虫の生息地ではないかと考えられ、今後の調査が待たれる。

なお、上述の府下の古い記録は以下の通りである(いずれも大阪市立自然史博物館所蔵)。

1ex., 京都府八幡市淀川三川合流点, 28-IV-1974, 後藤光男採集; 2exs., 京都市伏見区淀, 6-V-1934, 木村輝夫採集.



図1-3. 京都府八幡市のオオチビマルハナノミ。1, 採集個体; 2, 大谷川; 3, 放生池.

最後になるが同定の労をとられ、また貴重なデータおよび文献等を種々ご教授頂いた水野弘造氏(宇治市)、標本の発表を委ねられた谷壽一氏(八幡市)および大阪市立自然史博物館の初宿成彦氏に御礼申し上げます。

**引用文献**

水野弘造, 2001. 水野弘造の20世紀甲虫誌 - 虫寿記念 -, 関西甲虫談話会資料, (18): 1-146.

Yoshitomi, H., 2005. Systematic Revision of the Family Scirtidae of Japan, with Phylogeny, Morphology and Bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea). Japanese Journal of systematic Entomology, Monographic series, (3): 1-212.

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳7, E12-102)

**【短報】ニセヒメキノコゴミムシ沖縄島からの2例目の記録**

ニセヒメキノコゴミムシ *Coptodera marginata* Dupuis, 1912 は台湾原産で、日本からは吉武ら(2011)による1952年に鹿児島県佐多岬からの採集記録が最初である。その後1963年に西表島(吉武ら, 2011), 1967年に屋久島(吉武ら, 2011), 石垣島からは1973年(初宿, 2012), 1974年(深町, 1975)と記録されているが、いずれの記録も40年以上前の古い記録で、採集例の少ない種である。沖縄島からは田尾(1988)により国頭郡与那から記録されたが、その後の採集記録は見られない。そこで本種の沖縄島2例目の記録として報告しておく。

1♀, 沖縄県国頭郡東村高江, 30. VIII. 2014, 楠井善久採集.

森林内に設置したライトトラップに飛来した。上野ら(1985)によると上翅の波形の後紋は太いとされているが、この個体は細く、また上紋は縦長で小さい。

高江地区は沖縄島北部のいわゆる山原地方の南部に位置し、亜熱帯林が豊かに展開している土地である。この採集地付

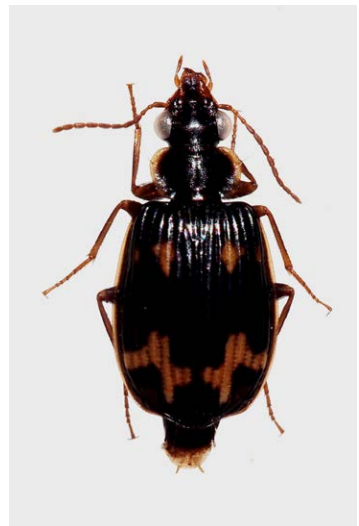


図1. ニセヒメキノコゴミムシ(沖縄県東村高江産)。